

# これでいいのか…？ 情報リテラシー教育。

安田女子大学 森友樹

## 本学図書館の概要



- 全15学科
- 1学年29クラス、約1,300人
- 地上4階建て
- 図書：34万冊
- 雑誌：4,600種類
- データベース：14種類
- 電子書籍：5種類
- 司書：8名
- 平均入館者数：300人/日
- 平均貸出冊数：年間6.9冊/人

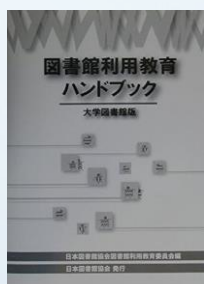
# “情報リテラシー教育”

## って何…？

“情報リテラシー教育 (≡ 図書館利用教育)”とは…



『図書館利用教育ガイドライン—大学図書館版—』  
(日本図書館協会図書館利用教育委員会編  
日本図書館協会 1998)



『図書館利用教育ハンドブック—大学図書館版—』  
(日本図書館協会図書館利用教育委員会編  
日本図書館協会 2003)

「図書館利用教育とは、すべての利用者が  
自立して図書館を含む情報環境を効果的・  
効率的に活用できるようにするために、  
体系的・組織的に行われる教育である。」

# 図書館利用教育の目標 ～5つの領域～

- ⑤ **情報表現法指導** → 各種メディアの特性と使用法を知り、目的に合った情報の生産と伝達ができるようにする。守るべき情報倫理を伝える。
- ④ **情報整理法指導** → メディアの特性に応じた情報の抽出、加工、整理および保存ができるようにする。
- ③ **情報探索法指導** → 情報の特性を理解すると同時に、各種情報源の探し方と使い方を知り、主体的な情報探索ができるようにする。
- ② **サービス案内** → 図書館の施設・設備、サービスおよび専門的職員による支援の存在を紹介し、図書館を容易に利用できるようにする。
- ① **印象づけ** → 図書館の存在を印象づけ、必要が生じた場合に利用しようという意識を持つようにする。

# 図書館利用教育の目標・方法・評価

領域1 印象づけ	領域2 サービス案内	領域3 情報探索法指導	領域4 情報整理法指導	領域5 情報表現法指導
以下の事項を理解する。 1. 図書館は生活・学習・研究上の基本的な資料・情報の収集・蓄積・提供機関 2. 図書館は資料・情報の受信・発信・交流の拠点 3. 図書館は種々のメディアを提供する機関 4. 図書館は物理的な空間というより空間に開かれた情報の場 5. 図書館は伝統・歴史・快適で自由な交流の場 6. 図書館は個人の知る権利を保障する社会的機関（知る権利） 7. 図書館は生涯学習を支援する開かれたサービス機関（学ぶ権利） 8. 情報活用技術の重要性 9. 図書館の機能と特徴 10. 図書館とそのサービスポイントの所在地	以下の事項を理解する。 1. 自館の特徴 2. 施設・設備の配置（分館、サービスポイントの所在地） 3. 検索ツールの配置と利用法 4. 参考図書・ツールの存在と有用性 5. 利用規定（開館時間等） 6. サービスの機能（貸出、閲覧、レファレンス、予約、リクエスト、情報検索、相互貸借、アクトリサーチ、利用指導等） 7. 対象別サービスの存在（障害者サービス、多文化サービス等） 8. 図書館員による専門的サービスの存在（調査・研究支援） 9. 図書館員による親切丁寧な案内・援助・協力を受けられること 10. 利用マナー 11. 行事の案内（講演会、展示会、上映会、ワークショップ等）	以下の事項を理解し習得する。 1. 情報探索法の意義 2. 情報の特性 3. 情報の形態のポイント 4. 資料の基本タイプと利用法（図書、雑誌、新聞、参考図書、AV資料、CD-ROM、オンラインデータベース等） 5. アクセスポイントと使い方の留意点、タイトル、キーワード、分類記号、件名目録、ディスタリブツ法等 6. 検索ツールの存在と利用法（書誌、索引、目録、OPAC、レファレンスデータベース等） 7. ツールを用いた存在と利用法（分散型、件名目録、シソーラス、マニュアル等） 8. 情報検索の原理（AND/OR/NOT等） 9. 情報探索ストラテジーの立て方（一般的、専門的） 10. 自館資料の編目法と利用法（分巻、請求号等） 11. レファレンスサービスの利用法 12. 他機関資料の調査法と利用法 13. プラグラムの活用	以下の事項を理解し習得する。 1. 情報の抽出と加工（要約、引用、言い換え、抄録、翻訳、解題等） 2. 情報内容のメディア別の記録法（メモノート法、カード記録法、タリピン法、カードベースのダウンロード、データ等） 3. 情報内容のメディア別加工法（ファイリング、コンタによる加工法等） 4. 資料の分類とインデックス作成法（キーワード、見出し等） 5. 巻録事項、アクセスポイントの記録法 6. 索引法（ブロードストリク、IC）法等 7. 分巻型・専門別の整理 8. 情報整理法の意義	以下の事項を理解し習得する。 1. 情報倫理（著作権、プライバシー、公正利用等） 2. レポート、論文、報告書、資料の作成法（構成、形式、引用等） 3. 印刷資料の作成法（パンフ、ポスター、チラシ等）

## 【方法・評価】

領域1 印象づけ	領域2 サービス案内	領域3 情報探索法指導	領域4 情報整理法指導	領域5 情報表現法指導
1. ポスター、ステッカー、チラシなどによる図書館の存在のアピール 2. パンフレット、リーフレットの配布 3. 案内見学ツアー 4. 館内サイン（説名、誘導） 5. 大学の中核計画（図書館までの誘導線、情報検索ゾーン、通路等） 6. 大学図書館、施設に関する情報の提供（パンフレット、マップ等） 7. 配布物（パンフレット、リーフレット） 8. 案内標識 9. 案内図 10. 案内データベース 11. コンピュータネットワーク（インターネット等）での案内	1. レファレンスデスクでの指導（参考書、調査法指導） 2. ワークショップ、講習会 3. 広報上場会 4. 学術調査会（授業、ゼミ） 5. 学術統合指導 6. 独立科目 7. ネットリアル 8. ゼミ先駆による指導 9. 情報表現法指導ツール（ビデオ、CAI等） 10. ワークブック 11. チェストブック 12. パブリッシング 13. 機器・資料の使い方のリーフレット 14. 機器・資料の使い方のサイン 15. 電子情報処理学科利用 16. コンピュータネットワーク（インターネット等）利用 17. 学内公開講座 18. マスターマイク 19. 情報検索・加工コーナー設置 20. 展示会、発表会	1. レファレンスデスクでの指導（参考書、調査法指導） 2. ワークショップ、講習会 3. 広報上場会 4. 学術調査会（授業、ゼミ） 5. 学術統合指導 6. 独立科目 7. ネットリアル 8. ゼミ先駆による指導 9. 情報表現法指導ツール（ビデオ、CAI等） 10. ワークブック 11. チェストブック 12. パブリッシング 13. 機器・資料の使い方のリーフレット 14. 機器・資料の使い方のサイン 15. 電子情報処理学科利用 16. コンピュータネットワーク（インターネット等）利用 17. 学内公開講座 18. マスターマイク 19. 情報検索・加工コーナー設置 20. 展示会、発表会	1. レファレンスデスクでの指導（参考書、調査法指導） 2. ワークショップ、講習会 3. 広報上場会 4. 学術調査会（授業、ゼミ） 5. 学術統合指導 6. 独立科目 7. ネットリアル 8. ゼミ先駆による指導 9. 情報表現法指導ツール（ビデオ、CAI等） 10. ワークブック 11. チェストブック 12. パブリッシング 13. 機器・資料の使い方のリーフレット 14. 機器・資料の使い方のサイン 15. 電子情報処理学科利用 16. コンピュータネットワーク（インターネット等）利用 17. 学内公開講座 18. マスターマイク 19. 情報検索・加工コーナー設置 20. 展示会、発表会	1. レファレンスデスクでの指導（参考書、調査法指導） 2. ワークショップ、講習会 3. 広報上場会 4. 学術調査会（授業、ゼミ） 5. 学術統合指導 6. 独立科目 7. ネットリアル 8. ゼミ先駆による指導 9. 情報表現法指導ツール（ビデオ、CAI等） 10. ワークブック 11. チェストブック 12. パブリッシング 13. 機器・資料の使い方のリーフレット 14. 機器・資料の使い方のサイン 15. 電子情報処理学科利用 16. コンピュータネットワーク（インターネット等）利用 17. 学内公開講座 18. マスターマイク 19. 情報検索・加工コーナー設置 20. 展示会、発表会

## 【目標】

『図書館利用教育ガイドライン—大学図書館版—』（日本図書館協会図書館利用教育委員会編 日本図書館協会 1998）

これでいいのか…？

“印象づけ”。

どこまでできてる…？“印象付け”

	サイン 掲示物	利用案内 パンフレット	ポスター ちらし	広報誌 新着案内	図書館HP	利用 セッション	図書館 ツアー	ガイダンス 講習会	各種行事
1.資料・情報の収集・蓄積・提供機関		○	○	○	○	○	○	○	○
2.資料・情報の受信・発信・交流の拠点			○	○	○		★		○
3.様々なメディアを提供する機関		★	★	○	○	★	○	○	
4.世界に開かれた情報の窓		○	★		○	★	○	○	
5.休息と交流の場		○	★			○	○		○
6.知る権利を保障する機関			★				★		
7.生涯学習を支援する機関			★				★		
8.情報活用技能の重要性			★			★	★	○	
9.図書館の種類と特徴						○	★	○	
10.所在地や窓口	○	○			○	○	○	○	

## これからどうする…?“印象付け”

### ①ポスター・ちらし

ポスターで広報しているのは、展示や行事などのイベントに関する内容。更新間隔は、2ヶ月程度。ちらし配付は、行っていない。



ポスターでは、利用できる資料やサービス、ウームシェアの呼び掛けなどイベント以外の内容も扱う。1か月以内を目標に更新。ポスターの白黒縮小版を、ちらしとして共用スペースに設置し、カウンターでも配布する。

### ②図書館ツアー

図書館ツアーの代替策として、新入生ガイダンスの中で図書館紹介の動画を上映。またガイダンス後に、自由見学の時間を設定。ただし参加率は低い。



図書館ツアーを行う場合には、グループ単位での図書館案内形式で実施。自由見学の場合は、解説資料や演習問題など、ポイントを絞って見学に取り組める工夫を行う。

これでいいのか…？

“サービス案内”。

## どこまでできてる…？“サービス案内”

	サイン 掲示物	利用案内 パンフレット	ポスター ちらし	広報誌 新着案内	図書館HP	オリエン テーション	図書館 ツアー	ガイダンス 講習会	カウンター サービス
1.自館の特徴	○	○			○	○	○		
2.利用規定		○			○	○	○		
3.利用マナー	○	○			○	○	○		
4.各種ツールの存在と有用性	★	★	★	○	○	★	★	○	○
5.利用できるサービスの種類	★	○	★	○	○	○	○	○	○
6.図書館員によるサービスや支援	○	★	★	★	○	○	○	○	○
7.行事の案内	★	★	○	○	○	○	○	○	★

## これからどうする…？“サービス案内”

### ①利用案内・パンフレット

利用案内とMyCARIN（ポータルサイト）の簡易版・詳細版マニュアルの3種類を作成。館内数か所に設置



各種サービスの利用法や各種ツールのマニュアルなど、内容毎のリーフレットを作成。判型やレイアウトなどを揃えてシリーズ化する。また、これらを取り揃えた利用案内コーナーを設け、利用者が必要なものを自由に持ち帰ることができるようにする。

### ②新入生オリエンテーション

入学後、1～3週間の時期に実施。図書館の便利さや快適さ、司書の専門性といった図書館の魅力について、十分な印象付けができていない。反面、OPACの使い方や予約方法等の細かな内容にも触れている。



図書館の魅力と利用できるサービスを印象付け、図書館を利用しようという気持ちを起こさせることを目的として内容を再編。大学での生活や学習に慣れ、新入生自身が必要性を感じられる時期に実施するよう見直す。

これでいいのか…？

“文献探索法指導”。

どこまでできてる…？“文献探索法指導”

	サイン 掲示物	利用案内 パンフレット	広報誌 新着案内	図書館HP	が ぐんす 講習会	カウンタ サービス	自学教材
1.情報の特性		★		★	○		○
2.情報の評価のポイント		★		★	★		○
3.資料の種類と利用法	★	★		★	○	○	○
4.アクセスポイントの使い方		★			○	○	★
5.各種ツールの存在と利用法	★	★	★	○	○	○	○
6.サーチエイドの存在と利用法			★	★	★	○	★
7.情報検索の原理		★		★	○	○	★
8.情報検索の計画の立て方					★		★
9.自館資料の組織法と利用法	○	○		○	○	○	○
10.リアルサービスの利用法	★	○	★	○	○	○	★
11.他機関資料の調査法と利用法	★	○	★	○	○	○	★
12.ブラウジングの効能					○		★

## これからどうする…？“文献探索法指導”

### ①ガイダンス・講習会

文献調査ガイダンスを、担当教員の申請を受けて実施。ただし、学科間・クラス間で実施状況に大きな差がある。



文献調査ガイダンスについては、実施済みのクラスの教員や図書館運営委員、学科長をキーマンとして個別交渉を行い、学年合同での実施に移行する。また希望する利用者が自由に参加できる図書館主催型の講習会を実施する。

### ②自学教材

文献調査ガイダンスで使用している20分の動画を図書館HPに掲載。電子リソースの概要の下には、「利用ガイド」のリンクを付けている。また、館内に「レポート・論文の書き方」コーナーを設けている。



各種ツールの使い方などの動画を追加。図書館HPに自学教材を集めたページを新設。動画のほか、テキストやワークブックについてもダウンロードして使用できるようにする。既存の「レポート・論文の書き方」コーナーに、各ツールのマニュアルや講習会で使用したテキスト類も配架し、コーナーの充実を図る。

# どうすりゃいいのか…？

## “整理”と“表現”。



## これからどうする…?“整理”と“表現” …勉強不足。未知の領域です。

### ①まずは、勉強。

まずは、『新・図書館の達人』（ライブラリー・ビデオ・シリーズ、紀伊國屋書店、1998、2002）の3～6巻で。

### ②資料の収集

情報の整理法・表現法に関する資料を収集・提供することは可能。

### ③著作権に関することならば…。

著作権法の概要や著作物を利用する上での注意点など、著作権に関することであれば講習会の開催も可能。

ご清聴、ありがとうございました。